



## 経鷺会「15周年を迎えて」

経鷺会会長 川野 克美 (S33 経・経)



経鷺会は平成元年からスタートして15年目を迎えました。当会の年齢は平成の年号と同じです。当会創立の経緯等については、すでにこの会報でも本多副会長(23号)、柳本副会長(24号)によって熱く語られています。この号でも、当会創立当時の経済学部長、佐藤真一先生に当時を「回顧」していただきました。

よく知られているように、上智大学経済学部は1913年(大正2年)4月、本大学の創立と同時に3つの専門コース(哲学科、ドイツ文学科、商科)の一つとして始まりました。1988年(昭和63年)、大学の創立75周年を契機に、経済学部も設立75周年を記念する会合が持たれました。多数の経済学部卒業生が参加し、その際に寄せられた会費、賛助金を基に、翌年の平成元年、当会は伍堂会長の下にスタートしました。同窓生同志の交流・親睦を通じて相互支援、パワーアップを図ろうというのが会のねらいです。

15周年として格別の行事は予定していませんが、来る11月の第15回総会は盛大に行いたいと思いますので、多数の同窓生の参加を期待しております。

ここでは、当会の15周年を機にこれまでの活動状況を整理し、こんごを展望してみたいと思います。

**(1)年中行事:** いろいろと曲折はありましたが、現在、当会のルーティンな行事として定着した主なものは次項の定時総会・講演会・懇親会のほか、①経鷺会サロン(毎月第二水曜日夜刻、ソフィアンズクラブ) ②会報「エコノミアン」の発行(年2回、春と秋) ③オールソフィアンズ・フェスティバル(例年5月下旬)に開設する経鷺会ワイン・コーナー④現役学生とOBとの交流会(就職懇談会)などです。その他、気軽なゴルフ懇親会や経済学部の先生方との交流会、観桜会等があります。いずれもおもしろい会合なので、ぜひ一度顔を出してみてください。

1993年からは、経済学部の2単位の特別講座「産業発展論」に当会の有志が非常勤講師を勤めています。この「OB講座」については、本号に寄せられた上妻経済学部長のメッセージにも出てきます。ともかく、講師の実戦論は学生の好評を博しております。

**(2)組織の特異性:** 当会はもともとボランティアな団体であり、入会申込書など最初からなく、経済学部OBなら自動的に会員となります。それだけに、もつと多くの卒業生に経鷺会を知ってもらうことが必要で、その上に「参加してみたらおもしろかった」という具合にもっていけば、会の理想とする「ネットワークの輪」はさらに広がることでしょう。

行事のにぎわいを維持し、1万人に会報を送付するためにも、もつと多くの会員に会費の応援をしてもらうことを切望します。

**(3)「知と遊びのクラブ」:** 世の中が変わり、転職や「第3の人生」が普通になってくると、何をおいても人脈ネットワーク、旧知のネットワークの中に群れる、いわば「知と遊びのクラブ」が21世紀の必需品のように思われます。そこに当会の出番があると確信しています。なにかグッド・アイデアがありましたら、手を高く上げて「この指止まれ」と同好の志に呼びかけてください。当会がその器になります。上智囲碁の会は当会から立派に育ちました。テニス、ゴルフ、絵画、俳句、オペラ、ワイン、スキューバダイビング・・・なんでもありです。同好会をやってみたい方々のボランティアを募集します。

15周年を機に、当会をもつとおもしろくしていくために「よし、手伝ってやろう!」という気持ちをお持ちの方はご一報ください。

## 平成15年度代議員会・定時総会のご案内

総務委員長 八木 達郎 (S49 経・営)

標記の会合を下記にて開催します。特に、今年は15周年に当たりますので、総会後の懇親会には学内外から理事長、学長をはじめ多数のゲストや関係者にもご列席をお願いしています。

記念講演ではゲスト・スピーカーに本学出身の蟹瀬令子さんを迎えます。彼女ご自身の転職とチャンスをめぐる「体験談」をソフィアンだけに語ってくれます。この講演を、特に“やる気のある”若い女性のみなさんに贈りたいと思います。大勢のみなさまのご参加をお待ちしております。

- 代議員会**
- 1. 平成15年10月8日(水) 18:00~20:00、ソフィアンズ・クラブ
  - 2. 議題は第15回定時総会に関する事項等。終了後、経鷺会サロンに移ります。

### 定時総会・講演会・懇親会

平成15年11月15日(土) 上智会館4階第5会議室

—総会 14:00~14:30

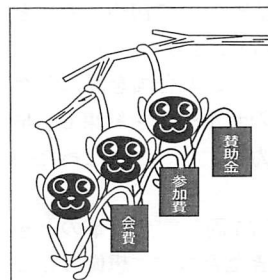
—講演会 14:30~15:30

講師: 蟹瀬令子氏 (S50 文・英文)

The Body Shop 代表取締役社長

演題: 「転職の乗り切り方、チャンスの活かし方 ~Yes, I can からのスタート」

—懇親会: 16:00~18:00 (懇親会費 3,000円)



会費納入にご協力を!

—払込みは同封の「払込票」で  
お願いいたします—



## 経鷲会と経済学部

経済学部長 上妻 義直 (S48 経・経)



上智大学の学生は、卒業と同時にソフィア会の会員になります。ソフィア会の活動は活発で、国内はもとより海外にも地域会があり、元々その地域に居住する会員や転勤等で新たにやってきた会員の交流の場になっていることは、皆さんご存知の通りです。

経済学部生の場合は、卒業後、ソフィア会に加えて、経済学部卒業生の同窓会である経鷲会の会員になります。経鷲会もまた、上部組織のソフィア会同様に活動的な組織であり、まだ女子学生がいなかった時代に学ばれた諸先輩方をはじめとして、世代を超える様々なメンバーが「エコノミアン」の名の下に集っているのです。

しかし、多くの現役経済学部生は経鷲会のことをほとんど知りません。ましてや自分たちの学習環境に経鷲会が深く関わっていることなどまったく知らないでしょう。

現在、経営学科の中には、産業論特講という科目が設置されており、色々な分野で活躍しているエコノミアンが講師となって母校の後輩たちを教えています。この科目は経鷲会のご協力なくしては存在し得なかったのです。

産業論特講は、産業界の生の情報をOB・OGに教えてもらうという趣旨で設置された科目で、別名「OB講座」と呼ばれていますが、設置当初から経鷲会の多大なご協力を得て運営されてきました。各産業分野で活躍されている経鷲会会員を講師に紹介していただいたり色々なご助言をいただいたりして、学生の人気を得ながら今日に至っているのです。

経済学部の教学が、こうして経鷲会に支えられてきたように、新たなエコノミアンを送り出すことで経済学部もまた経鷲会と関わっています。経鷲会と経済学部はいわば車の両輪で、互いに緊密な関係を作り上げながら協力し合ってきました。

これからも両者が手を携え、母校の発展のために貢献して行かれればよいと思います。

## 懐かしい思い出

元経済学部長 佐藤 真一

平成元年11月4日、わが経済学部では、同窓会の創立総会が、卒業生を中心として約500名の出席を得て十号館で開催された。このことは上智大学七十余年の歴史の中で初めてのことであり、他の大学でもほとんど例の無いことであろう。

当時、学部長をしていた関係もあって、この企画を耳にしたとき、前例のないことだけに、教授会のサポートを約束し、早速その次の教授会にかけて全面的な協力をすることになったのである。

大体この企画は、一年前の経済学部75周年記念行事のときに提案され、全員一致で準備を進めてきただけに、想像はして

いたものの、役員の方々の発会に向けての熱意と努力にはほんとうに頭の下がる思いがした。初代会長の伍堂光男氏、現会長の川野克美氏、柳本信一郎氏、池田賢吾氏等、多数の方々によって会則の制定、事業計画から予算の設定にいたるまで行ったのである。

私自身も代表顧問の榮譽を与えられ、諸々の立案に参画した思い出は、学部長時代の特記すべき出来事となっている。経鷲会は同窓会会報としてECONOMYANを発行し、すでに24号まで刊行されているが、なにせ自由参加の組織であるだけに、会費が不足しがちな点が気になってならない。かような会を作ることに同時に、発展させることが大切である。

創立総会では記念講演として本学教授のグレゴリー・クラーク氏によって、「日本の経済と日本の文化」と題する講演が行われたが、文化と経済の相関関係ほど大事なものは無い。文化性の豊かな経済活動を通して、経済の発展を考えねばならない。

本同窓会の幹事役を引き受けている公認会計士の大滝文博氏、同松本正一郎氏が、共にわがゼミナールの出身者であることも喜びの一つである。



教壇での佐藤教授

## サッカー人生

～サッカーは子供を大人にし、大人を紳士にする

鶴岡 朝行 (S37 経・経)



昭和33年入学した頃、新聞はサッカーの記事かと思えば“サーッと風が吹く”だったり、上智の記事かと思えば“上野”の事だったりサッカー、上智とも新聞の記事になることは少なかった。

昭和39年東京オリンピックの時、サッカーの入場券が余り、オリンピックをみたい人がサッカーをみてその面白さを知った。日本が強豪アルゼンチンを破ったことから人気は急上昇した。その立役者がドイツ人デットマル・クラマーさん。

日本サッカー協会は世界中でコーチを探しまわり、デットマル・クラマーさんの部屋に貼ってあった次の文言をみて最終決定をした。それは【目でみるな 耳できくな 心で観ろ 心で聴け】であった。そのクラマーさんが36年初来日、日本代表を指導する前にイエズス会の関係で一日だけ我々上智を指導してくれた。その時の言葉はただ一つ【EXACTLY 正確に】であった。

その彼が日本代表を、大和魂や残心という日本人も忘れていた日本語で指導し、43年のメキシコオリンピックで銅メダルを獲得するところまで引き上げた。Jリーグの前身である日本リーグを発足させたのも彼の提案によるものであった。

ところで上智のサッカーについて。

昭和32年、苦しい戦いの末、関東大学リーグ2部に昇格した。以来上智で華やかに活動するクラブとなり、**上智のサッカー、サッカーの上智**と言われるまでになった。33年から49年の17年間関東大学2部に在籍して、その間1部昇格のチャンスが2度あったが、果たせず、いまだに悔しい思いである。

49年東京都リーグ1部に降格した。それが一昨年2部へ、昨年は3部へと2年連続降格、今年から3部で戦うことになった。私は今年から2度目の監督をしているが、言葉では教えないやり方で選手に接している。選手には人に対する思いやりや、人の心を察する力をつけることを要請している。サッカーはチームワークだからだ。今年は才能豊かな選手が多く、3部全勝優勝して関東大学2部へ復帰する基盤づくりの年としたい。

2002年ワールドカップで活躍した日本サッカーの礎はクラマーさんに遡る。上智のサッカーもクラマーさんの教えを受け継いでいる。日本サッカー協会は100年構想を打ち出しており、我々もそれに習って長期構想で臨みたいと思っている。

上智もサッカーも大人になったがまだ紳士になりきっていない。笛が鳴るまで最後まで諦めない！（体育会サッカー部監督、元三共エール薬品営業部長）

## トラウマ脱出の為に ヨーロッパ演奏旅行

秋元 征紘（S43 経・経）

今年の夏の、異常気象を思わせる雨続きは、例年であれば長野県の八ヶ岳周辺でゴルフや山登りの夏休みを終えて、気分爽快な九月を迎えるところだったのですが、今年はなんとなくフラストレーションの溜まった休み明けでした。また、今年は私にとってはもうひとつのプレッシャーがありました。それは、一昨年の参加以来ほんのお付き合いのつもりで活動して来た、作曲家の三枝成彰氏が主唱されて各界著名人も多く参画していることでも話題の、「六本木男声合唱団」のヨーロッパ公演が迫ってきたことによるものです。

今回の演奏旅行は、9月14日のオーストリアのウィーンを皮切りに、16日のグラーツ、更には18日のベルリンと欧州三都市に及ぶものです。現在、参加予定の団員は約100名、参加家族は80組を超える大デレグーションとなりそうです。公演会場もウィーンでは、小澤征爾指揮ウィーンフィルによるニューイヤークンサート開催で日本でも一躍有名になった「楽友協会大ホール」、ベルリンでは「コンツェルトハウス」と、いったって本格的な公演になりそうな勢いです。レパートリーとしては、三枝氏作曲の「レクイエム」全曲（演奏時間は約50分）、「希望海」、同氏編曲の「冬の夜」、山田耕筰作曲「からたちの花」をはじめ、「そうらん節」、「八木節」、「黒田節」といった日本民謡、更にはシベリウス作曲「フィンランディア」やオペラの名曲を数曲と多岐にわたったものが用意されています。

そもそも、横浜の県立高校の合唱部で、男声合唱にすっかりはまってしまった話や、その後の、仕事の上で「ザ・バンド」、「マイケル・ジャクソン」、「ダイアン・リーヴス」といったアー

ティストとの関わりや、音楽そのものへの拘りについて「Mostly Classic」の取材記事の中で語ったことがきっかけでこの合唱団に入団することになった訳ですが、2年あまりの間にここまで深入りするとは、当初は考えてもおりませんでした。



左から衆議院議員鈴木寛氏、全労災理事長鷲尾悦也氏、筆者

もっとも、昨年8月、毎年のように1週間から10日程滞在している長野県の野辺山の拙宅から、毎日見ていた八ヶ岳に突然登りたくなり、あまり気の進まない妻と娘を強引に誘って、赤岳、地蔵、硫黄と2日間で縦走してしまったのも、実は前述の合唱団と並行して山岳部に所属、北アルプスや丹沢を歩き回っていたことと無関係ではないことに気が付きました。

そして、当時のいわゆる受験戦争のなかで、ほかの同級生たちがしのぎを削って勉強している中で、のんびりと、合唱や山にうつつを抜かして、結局、一浪という過程が必要となった自分自身への、一種の罪の意識と反省から、上智大学入学の時に、高校時代からの友人から強く勧められたにもかかわらず、山岳部には入らず、せっかく入部したグリークラブも3ヵ月余りでドロップアウトしてしまった事を、鮮明に思い出しました。

今回のヨーロッパ演奏旅行は、この30数年前の一種のトラウマから脱出するためには最高のステージのような気がしています。なお、今回は、経済学部の後輩で、MIHO美術館の企画運営をしているS52経営学科卒の今田知広さんが三宅太鼓を引っさげて活躍、また同級生で現在、国際通貨基金(IMF)アジアパシフィック代表の日野博之さんはベルリンから参加と、楽しい旅行になりそうです。本稿が、皆様の目に触れるころには「団」のヨーロッパの大成功が各種メディアで報道されていることと信じます。（گران株式会社 代表取締役社長）

## 「なぐさめ」という仕事

柴田 泰正（H11 比文・日本文化）

銀座の真中にコンサートホールがあるのをご存知でしょうか。場所は三越デパートの裏手、王子製紙本社ビル内にある「王子ホール」がそれです。王子製紙がメセナ活動の一環として設立した席数315の小さなホールで、主催する公演は弦楽四重奏や歌曲など、クラシックの室内楽が中心。私は一昨年より



ここに勤務しています。

上智大学在学中は比較文学、それも『能狂言の詩学』という浮世離れたテーマに没頭していたせいも、恥ずかしながらリクルートスーツを着ての会社訪問まで思い及ばず、卒業後も学生時代にアルバイトとして始めた翻訳業を続けておりましたが、縁あってこの王子ホールで働くようになり、現在は企画室に所属しています。職場では宣伝物の制作やWebサイトの管理更新、また海外アーティストとの渉外なども担当しています。ちいさな所帯のため何役もこなさねばならないのが辛くもあり、楽しくもありといった毎日です。

なかでも一番の楽しみはコンサート当日。公演前のリハーサルでは国内外の一流アーティストの芸を間近に味わい、普段は表に出ないアーティストの素顔にも接することができます。演奏会の最中は舞台袖に控え、ときおり撮影用の小窓から様子を覗うのですが、演奏者の背後からコンサートを観られるのも裏方の特権といえます。分厚い扉を隔てた舞台裏までずさまじい集中力を感じさせる奏者もいれば、一曲終えたところで「靴を履き替えるの忘れてた!」と言い残し猛ダッシュで楽屋に戻る、若干注意力に欠ける奏者もいます。また客席へと目を転じると、一曲目から心地よさそうに熟睡なさる方や、上体をゆすって不規則なリズムな刻む方まで千差万別。そんななか目を輝かせて音楽に聴き入っていらっしゃるお客様も、もちろんいらっしゃいます。「紛ることなきつれづれをもなぐさめ・・・」とは光源氏の芸術(物語)論ですが、音楽に身を任せている数分、数十分の間は、イラク侵攻やローンや通り魔事件といったことを忘れられる。そしてそんなお客様の姿を見ると、自分が微力ながら『なぐさめ』の手助けをしているのだと感じることができ、報われる思いがします。

王子ホールでは通常の演奏会に加え、音楽・朗読・歌・ダンスを融合させた3年連続上演の新しいホールオペラ「エレクトラ3部作」(経鸞会川野会長もお越しくございました)や、フリードリンク制のクリスマス&ニューイヤー・コンサートなど、大人がくつろいで楽しめる場をご提供しようと様々な企画を実施しております。皆様も『なぐさめ』の時間を過ごしに、ぜひ銀座まで足をお運びください。(株)王子ホール企画室

王子ホール：中央区銀座4-7-5

TEL：03-3567-9990 (チケットセンター)

URL：http://www.ojihall.com/

e-mail：masa.shibata@ojihall.com



左から筆者、ホアン・モンラ (パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール優勝者、加藤洋之 (ピアノ) の両氏

## わが愛しのヴェノスアイレス

MI BUENOS AIRES QUERIDO

中岡 敬行 (S48 経・営)



先の会報 (Vol.24) にて国連機関でご活躍されている山田さんの事を思い出し、ソフィア会に紹介をお願いしたところ即日、経鸞会の三木眞弘様 (S46 経・経) から山田さんを紹介する旨のE-mailを受け取りました。三木さんは山田さんとは共に米国の大学に留学されたこともあり旧知の間柄とのことで、翌日にはウイーン在住の山田さんからメールを頂戴致しました。

そのような縁で、三木さんから経鸞会サロンに誘って頂いた際に心ならずも「アルゼンチン (以下、亜国)」についての寄稿を依頼されました。

さて、この拙文の題名はタンゴの曲名ですが、私にとって亜国の3年3ヶ月は一大ドラマの舞台として終生忘れられないものがあります。私が東京銀行ブエノスアイレス支店に赴任したのは今から9年前、1994年の早春の候でありました。日本とは丁度、地球の反対側に位置する亜国は季節も逆で正しくは初秋の頃でした。中南米有数の大都市で一昔前の一等国として片鱗を残していましたが、中古車が多く、スペイン勤務時代 (1979~1984) と良く似ていて、まるで昔にタイムスリップしたような印象を受けました。その後、米ドルとペソの通貨が1:1の兌換法の下、外資導入により高速道路は整備され新車も見られる等、経済は安定成長しました。

“成長と停滞を繰り返す、資源は豊かでも貧しき国・亜国と国民性”について多くの事を教えて頂いたのが、ソフィア・ブエノス会の野尻元会長や谷本現会長の両先輩でした。私の赴任目的はデフレ不況下のリストラ作業でしたが、国民性や文化を理解することが出来たお陰で、厳しい交渉を無事に乗り切ることが出来ました。

一方、亜国もゴルフ天国で両先輩も参加されるコンペに良くご一緒しました。

特に、1995年2月26日、炎天下、マッチプレーの優勝決定戦にて私がホールインワン (HOYO EN UNO) をして優勝した事でした。亜国と言えばAg (銀) なので、記念に大きな銀製の盆にスコアを刻んで貰いました。

最後に、日本との貿易収支は赤字ですが、亜国は日露戦争時に軍艦「春日」「日進」の譲与、第二次大戦直後の食糧難に小麦の寄贈、1995年の阪神淡路大震災の際に一般市民の方からの寄付等々、困っている人を助ける「他人への思いやり」の収支については亜国側の対日黒字ではないでしょうか。

中南米の大国の一つたる亜国が一日も早く資源大国として発展の途をたどることを期待しております。



## 映画『able』上映会のお手伝いをして

田辺 学 (S58 経・経)



毎年5月に「オールソフィアンの集い (ASF)」が開催されますが、例年卒業20年目の年次を中心に準備を行うのが慣例となっています。今年は58年卒がその順番に当り、私も坂本康実先生のゼミの同期・後輩と共にASFのお手伝いに参加する機会を得ました。残念ながら坂本先生は亡くなりましたが、先生を偲びながら、ゼミの多くの旧友と20年ぶりの再会を果たす事ができました。

ASFでは、上智の校風である国際貢献やボランティア活動など、何か上智らしい気持ちに触れることの出来る企画が毎年行われています。そして今年は、映画『able』の上映が10号館講堂にて行われました。

この映画は、知的発達障害のある日本少年2人がアメリカ・アリゾナ州でのホームステイにチャレンジし、すばらしいホストファミリーと生活しながら成長して行く姿を記録した感動的なヒューマン・ドキュメンタリーです。NPO法人スペシャルオリンピックス日本の細川佳代子理事長(41文英、細川護熙元首相夫人)の呼びかけにより、知的発達障害を持つ方のありのままの姿を多くの方に知って頂き、そしてよき理解者になって頂きたいという思いを込め、たくさんの方の寄付によって制作され、昨年劇場公開された作品です。当日は細川理事長、監督の小栗謙一氏、主演の渡辺元君とお母様(渡辺ジュンさん、45文社)にも出席頂き、映画上映の前後にすばらしいスピーチとお話をお聞きする事も出来、障害者に優しい社会の実現や日々のボランティア活動のあり方を考えさせられる大変感慨深い上映会となりました。

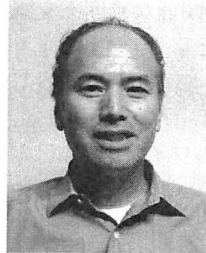
このスピーチの内容につきましてはソフィア会のASF2003のホームページ(下記)にも掲載されております。スペシャルオリンピックスの理念や映画作成までの経緯など大変すばらしいお話でしたので、この場をお借りしてご紹介させて頂きたいと思っております。是非一度下記をご覧ください。

URL : <http://www.sophiakai.gr.jp/~asf2003hp/index.htm>

なお、今年の6月にはスペシャルオリンピックス世界大会がアイルランドで行われ、166カ国から7千人のアスリートが参加しましたが、小栗監督により現在そのアイルランドを舞台とした映画『able2』 Host Town が作成されています。この『able2』 Host Town も寄付をお願いしながら制作が進められているものですが、1万円以上の寄付をして頂いた方のお名前全てを映画の最後にお載せすることになっています。この寄付に関しましては、ソフィアンズクラブ(問合せ先: Tel 03-3238-3075)にも御案内のパンフレットを置いてございますので、この機会に、クラブ、サークル、ゼミあるいは個人名、会社名にて、寄付についてもご検討頂ければ幸いです。(ASF2003 実行委員、ドイツテレコム経理部長)

## 人生は「Action Comes First !」

諏訪部 孝道 (S41 経・経)



最近の低迷・不振にあえぐ経済下で、退職する人は大変です。なかなか次の生涯ビジネスを見つけることは、至難の業。私の場合、2年前定年退職し、友達とビジネスを始めようと、神奈川県公的資金融資の認定まで受けたのですが、スムーズな段取りができず、準備段階で中止。

いざ新しい仕事を探そうと、親しい仲間に頼んでもなかなか見つからない。とにかく稼ぐための仕事をと、挙句の果てに、新聞広告の営業に応募してオーディオ製品の営業に挑戦。新人賞を取ったが、この年令で、第一戦のセールスは骨が折れた。毎日、朝から夜まで神経を張り詰め足で回り、疲労困憊の毎日、まさに泥のように寝ました。でも、世の中、自分の足で、まじめに仕事していると、天のひとが見ているんですね。

ある日、親しかった社長に出会い、仲間が新会社を興し、歯科医院で使う最高級のレーザーや日本ではじめて認可された歯を白くする「ホワイトニング」薬剤の輸入認可に成功。全国で爆発的な人気と売り上げを博していた。私は、全国の営業拠点をつくるべく、地方まわりに参戦。

半年を過ぎ、職場の仲間が歯科医院のチェーン店を200店舗つくるため独立。手伝ってと頼まれ①コンサルタント業を始める。現在、6店舗開業し、2店舗建設中。さらに、「ホワイトニング専門歯科」と「コンビニ歯科」の新規事業を展開進行中。加えて仕事が舞い込み、②ニュータウン開発の「街づくりシステム」をプランニングするコンサルタント業を受ける。飯田橋の住宅開発(260戸)と金沢八景(1800戸)を進行中。さらに、③国際的に優秀な特許をビジネスにする新規事業化計画のプロデュースコンサルタント業務を、外資と組んで、現在、進めている。

こんな不透明で変革の時代だから、それぞれのユニークなビジネスチャンスがあるのだと実感する。この2年、どん底を経験してきただけに、自分自身の第三の生涯ステージを見つけだしつつある今日に、心から感謝したい。

窮地に陥ったとき、「Action comes first !」と、自分だけで乗り越えるのではなく、「必ず他の人が、手を差し伸べ手助けしてくれる」・・・実感として、私はそう思う。

最後に、現在、上智OBのテニス愛好家仲間を募集中(現在約70人)。素敵な仲間づくりに是非、ご協力ください。連絡先: [suwabe3@sakura-catv.ne.jp](mailto:suwabe3@sakura-catv.ne.jp) と 090-8048-1774。



## Topics

## 大いに盛り上がったオールソフィアンズデイ

上原 隆一 (S51 経・営)

2003年5月25日、オールソフィアンズデイに経鷲会恒例の「ワイン講座」を開設しました。本年より購買部とソフィアンズクラブの間の、落ち着いた隠れ家的な場所を確保しましたが、実はこの場所が素敵なんです。石畳が閑静な雰囲気醸し、その石の間から顔を覗かせる青々とした草が、頭上の木々からは小鳥の囀りと木漏れ日が心を癒し、小国君が私費を投じて経鷲会に寄贈してくれた可愛らしげなテントを2張り設営、そこで、メルシャン様から頂戴した試飲用のワインを、赤は木陰の土の上に、白はたっぷりの氷と一緒にシャンパンクーラーに刺して、ここはあたかも南フランスか南イタリアを思わせる素晴らしい空間が創造できたのです。

講座は「ワインとは土地に密着したもの」というテーマで進めました。

メルシャンは塩尻や千曲川流域のブドウ栽培の好適地に長い年月をかけ、漸く素晴らしい品質の100%国産ワインの発売に漕ぎつけました。カリフォルニアのマーカム社のワインも併せて試飲し、土地による違い、ワインメーカー（造り手）の目指すものの違いなどを実際に確かめることができました。

当日は、諸橋先輩や伍堂前会長、川野会長はじめ50人以上が参集し、金祝を迎えられた大先輩、学部外や他のサークルのOB・OG、現役学生、留学生なども来会し美味しいワインと手造りサンドイッチ、焼鳥などで、談笑が途絶えることなく時間が過ぎました。今年は他のサークルが何となく盛り上に欠けたのとは対照的に、大いなる盛り上がりも見せました。

経鷲会のコーナーは来年も同じ場所でまた趣向を変えて開催いたします。来年は是非もっと大勢のOB・OGの皆様と語り合いたいものです。（当会事業企画委員長）

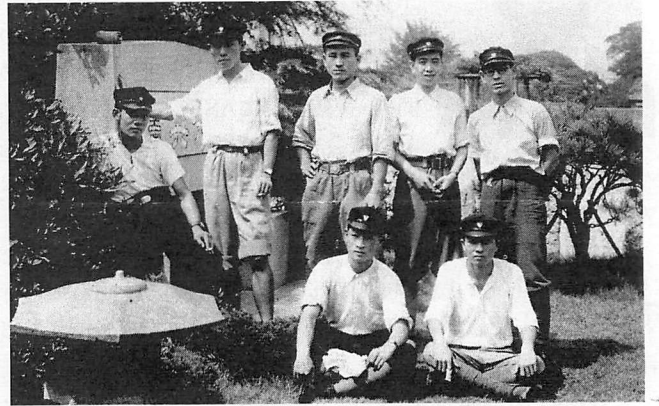
## 丸帽と角帽～青山さんからの手紙

青山さん（S25 経経）には前号(24号)で「青春の体験」を寄稿いただきました。その際、事務局の手違いで、写真を掲載できません

したので、今回、その写真と手紙を紹介いたします。（事務局）

「私のお送りした拙文を読んでいただき、感謝に耐えませんが、第2次世界大戦も終りましてから60年近くを過ぎております。その戦争を歴史上の出来事としてしか知らない人たちに、私のほんの少しの戦争体験を伝えることでできれば幸いです。

スナップ写真とのことですが、なにぶんにも60年前のこと、適当なものはありません。探してみても、予科在学（2年）のものが1枚ありました。学徒出陣の3ヶ月位前に先輩と一緒に



撮ったものです。服装からみて昭和十八年の初夏と思います。写真の向かって右端の眼鏡をかけている丸帽が私です。当時、予科は丸帽、本科は角帽でした。」

## 経済学部三役との交流会

平成15年5月28日午後6時から「銀座クルーズ」にて標記交流会を開催した。

大学からは経済学部長上妻教授、経済学科長鬼頭教授、経営学科長山田教授の3先生を迎え、経鷲会から川野会長、柳本副会長ほか20名が出席した。

懇談の席上、先生方から経済学部の現状、学生気質、就職状況などについてお話があり、当会メンバーからはそれぞれの立場から経験談などが活発に披露された。（八木達郎 S49 経・営）

## 掲 示 板

## 経鷲会のこんごの活動予定

- 10月8日(水) 代議員会 (1ページ記載)
- 10月30日(木) 学生との就職懇談会、PM6:00～9:00、Sクラブ、あなたの経験を学生に語ってください。
- 11月1日(土)～3日(月) ソフィア祭、正午～3時の間、経鷲会が後援する留学生ブースが開設されます。SJハウス前、メンスト近く。中国国旗が目印。チンタオ・ビール、手作り餃子が人気。
- 11月11日(火) 第13回ワインセミナー、PM6:30～、Sクラブ、会費3,000円(女性無料)
- 11月15日(土) 定時総会・講演会・懇談会 (1ページ記載)
- 12月1日(月) 第14回ワインセミナー (第13回と同じ)
- 12月10日(水) 経鷲会忘年会、PM6:00～9:00、Sクラブ、会費3,000円

上記のうち、次の3会合については、5日前までにFaxまたはE-Mailにて出席申し込みをお願いします。

Faxの場合、この用紙でご希望の各会合に○印をつけてご返信ください。

申し込み先：FAX 3339-9058, E-MAIL apex@gol.com (小国敏雄)

(A) 10/30 学生との就職懇談会 (B) 11/15 定時総会・講演会・懇親会 (C) 12/10 経鷲会忘年会

お名前と卒年、学部学科： \_\_\_\_\_

あなたの Fax / Email-address : \_\_\_\_\_